

公表

事業所における自己評価総括表「児童発達支援」

○事業所名	こどもデイサービスらびい		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 15日		2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族からの満足度については高評価を頂けている	<ul style="list-style-type: none"> 口答や連絡帳でのやり取りに付け加え、活動の様子を写真メールで送るなどし、より本人の様子が分かるよう発信している。 家族から気になる様子がある時は、電話でのやり取りも行ない不安を取り除けるように配慮している。 より良い本人支援を行う為に、家族との共通認識が持てるよう細かい本人の反応や様子など、専門用語を使用せず、家族目線に合わせた言葉のやり取りを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して行う。 本人の感情表現・感覚・言語の認識など家族の捉え方を細かく聴き、支援者側の感じ方を細かく話す事で、共通認識を高める。 集団での活動を通して、成長・発達を促しコミュニケーションの基礎的能力の向上を支援する。
2	適切な支援の提供 子供の成長発達に応じた活動プログラムを提供できている	<p>四季を感じるプログラムや子供たちに合わせた活動プログラムの工夫を常に考え実施している。</p> <p>年間通した行事的なイベントについては、毎年同じような内容の為、変化が解り難い。内容について日々話し合いながら、少しでも変化が感じられる工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の遊びや日常生活の中で、経験を増やし成長・発達への支援を増やしていく。 地域との交流が少ないため、営業時間内で交流が出来るイベント参加を検討していく。(図書館で実施される、お話し会への参加を継続して行う)
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p><関係機関や保護者との連携></p> <p>地域との交流が少ない 家族支援プログラムの提供が十分ではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の図書館で開催される「お話し会」へ参加している。体制状況や子供の利用状況により、毎月参加は出来ていない。 保護者会や交流イベントなどの、家族支援が不十分である。 	<p>今年度3月に「保護者会」を実施する。</p> <p>保護者の人数を考え、公共の施設を借り行う。通所日でないお子様も同席出来るよう配慮する。</p> <p>児童発達・放デイ、双方の保護者の交流の機会とする。</p>
2	<p><非常時等の対応></p> <p>各種マニュアルはホームページにも掲載されているが、具体的に解りやすい説明として保護者に出来ていない。</p> <p>避難訓練の様子、発信が少ない。</p>	<p>各種マニュアルについて、BCPが書面だと枚数多く解り難さがあるようだ。家族が気になっている、災害時の避難や緊急時の対応・感染対策など、各家族全ての方への説明は不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療ケアの計画書を作成し緊急対応などの説明動きは確認しているが、個人差がある。 車椅子での避難経路が安全を考え、玄関のみになっている為、ベランダからの避難経路を検討している。 	<p>今年度3月に「保護者会」を実施する。</p> <p>保護者の人数を考え、公共の施設を借り行う。通所日でないお子様も同席出来るよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルの簡略化した資料を準備しプレゼンテーションを実施する。 避難訓練の様子を写真などを用いて説明する。 車椅子での避難を安全かつ迅速に出来るよう、今年度2月にベランダの改装工事を行う。次年度は新しい避難経路を使って訓練を計画する。
3	<p><環境・体制整備></p> <p>基準は満たしているが活動内容によっては狭いと感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放デイの子供達と利用時間が重なる時(学校の休曜日)に、こども成長と共に、行動範囲も広くなり、部屋で車椅子と共に過ごす事が危険因子も含まれるようになってきた。 室内で、臥床する人・車椅子に乗車している人など様々な状況があり、数台の車椅子を同じ空間に配置する事が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別対応が必要な時は、引き続き玄関フロアも利用し子供の精神的安定に配慮する。 行動範囲が広がって危険だと感じる時は、マットなどで保護し注意する。 部屋の広さについては、基準を満たしているが、建物の構造上大きい車椅子を同時に多数使えるような配慮が物理的に難しい。 子供の通所日をずらすなどについては、保護者や他事業所との調整も必要である為難しい。